授業づくり研修講座　実践レポート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　東原小学校　　　　氏名　廣谷　希

≪第２学年≫

テーマ　『楽しみながら考えて書く活動』

児童が作文を身近な行為と感じ、文章を楽しみながら考えて書けるようになることを目指して、日記指導を中心に一学期から実践を重ねてきた。一年間を通して段階を踏んだ活動を重ねることで、その定着を目指したい。

【1学期】　●三文日記を毎日書く。

　　　　　　　　　　　　　　⇒一日の中で一番印象に残ったことを三文、５分程度で書く習慣をつける。

【2学期】　●“楽しい”など児童の文章の頻出語を制限して、日記を書く。

⇒語彙を増やす。

楽しい→“わくわくする・るんるん気分・心が躍る”など

　　　　　　●ペアになり、お返事日記を書く。

？は　①「はい」「いいえ」で答えられない。

1. 相手がちょっと考える。

　　　　　　　１　友達の日記を読んで、？を考える。

　　　　　　　２　相手の？に対するお返事三文日記を書く。

 ⇒？を考えたり、お返事日記を書いたり読んだりする楽しさを味わう。

≪児童の日記≫

今日あいりちゃんとゆうかちゃんと水たまりであそびました。どろが、ウニャウニャしていました。

ぬれなくてよかったです。

≪友達からの？≫　どのくらいふかかったですか。

≪おへんじ日記≫

ぼくの長ぐつがうまるくらいでした。水たまりのふかさは10センチくらいでした。

水たまりはいつもよりふかかったです。

一学期からの積み重ねで、児童は三行日記を短時間で書く習慣が身についてきた。お返事日記では、友達の日記を読んで様子を想像しながら？の内容を考えたり、友達からの？に対してどう答えればより伝わるかなどを悩んだりしながら、楽しく活動する姿が見られた。

【3学期】　●三文日記＋お返事日記　でより長い文章を書く。

⇒考えて楽しみながら、より長く、詳しい文章を意欲的に書けるようにして

いきたい。